

2005年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、高緯度ではノルウェー海からバレンツ海にかけて負偏差の中心がみられた。中緯度では地中海から中央アジアの領域と北アメリカ西部で負偏差がみられたほかは、北太平洋東部、ロシア西部を中心に全体的に正偏差が分布し、中緯度帯のほとんどの領域で850 hPa の気温が正偏差となった。

熱帯の対流活動は、太平洋西部赤道域で平年より活発だった。一方、インド洋赤道域からインドネシアにかけては、平年より不活発だった。また、アラビア海北部からベンガル湾北部、インドシナ半島にかけては平年より活発で、アジアモンスーンの対流活発域は北偏していた。一方、東部太平洋熱帯域では平年より活発で、熱帯擾乱が平年より多く発生した。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、140°E 以東の太平洋では南北両半球に高気圧性循環偏差がみられ、赤道付近は全域で東風偏差となった。フィリピンからインドにかけては低気圧性循環偏差となり、インド洋東部の熱帯域も低気圧性循環偏差だった。

SOI (南方振動指数) は+0.3となった。

- ② シベリアの高温
- ③ 中央アジア南部の高温
- ④ インドシナ半島の多雨

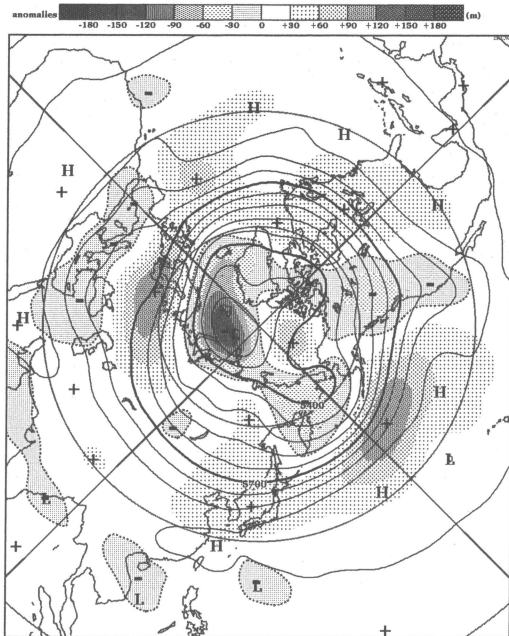
フィリピン、ベトナム、ラオス、タイ北部では下旬にベトナムに上陸した台風第18号の影響により、少なくとも120人(中国南部含む)が死亡したと伝えられた。

- ⑤ インドからパキスタンの多雨
バングラデシュからインドのベンガル湾沿岸では、中旬に暴風雨と高潮により、50人以上が死亡、1000人以上が行方不明と報じられた。
- ⑥ ロシア西部からヨーロッパ北東部の少雨
- ⑦ トルコからヨーロッパ南東部の多雨
- ⑧ アルジェリアの多雨
- ⑨ アフリカ西部の高温
- ⑩ ベーリング海周辺の多雨
- ⑪ 米国東部から中米の高温
- ⑫ 米国東部の少雨
- ⑬ 南米北部の高温
- ⑭ ミクロネシアの多雨

(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 村上喜章)

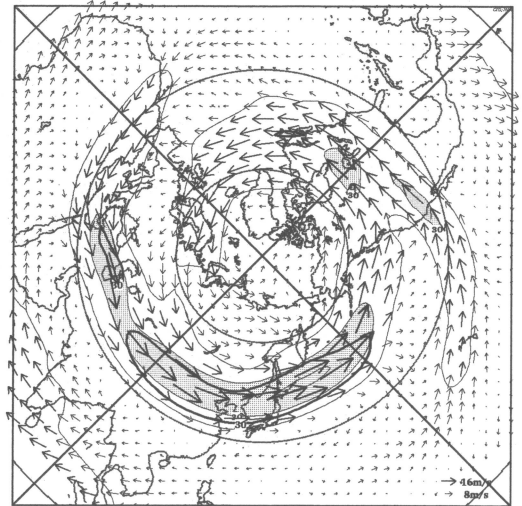
世界の天候

① 西日本からインド北部の高温



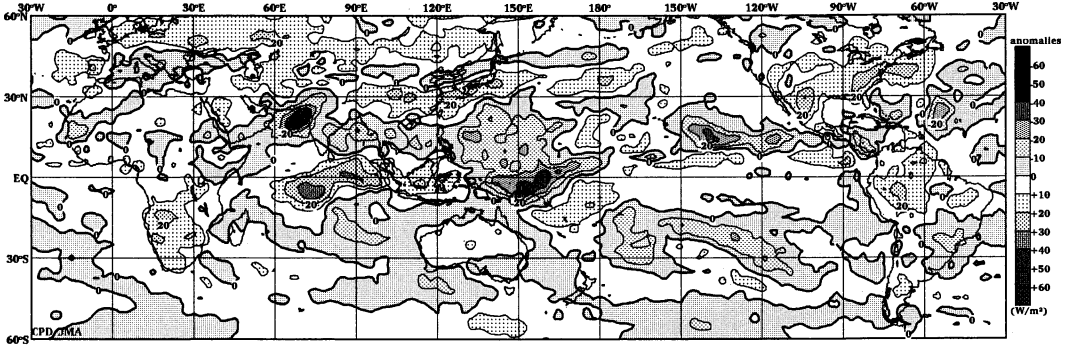
2005年9月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

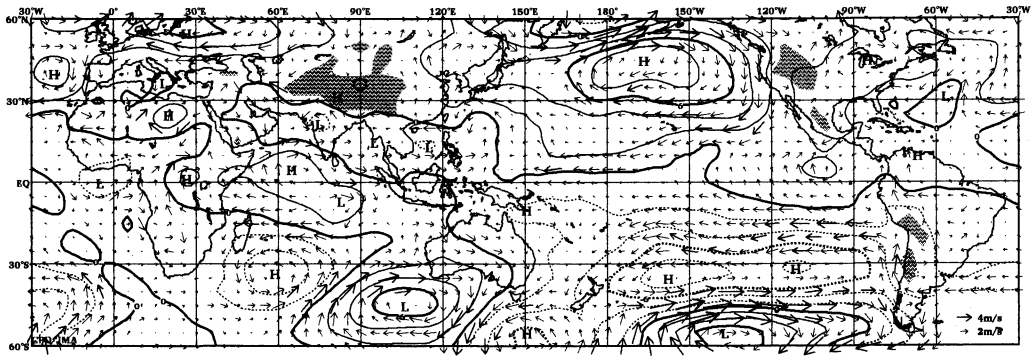


2005年9月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

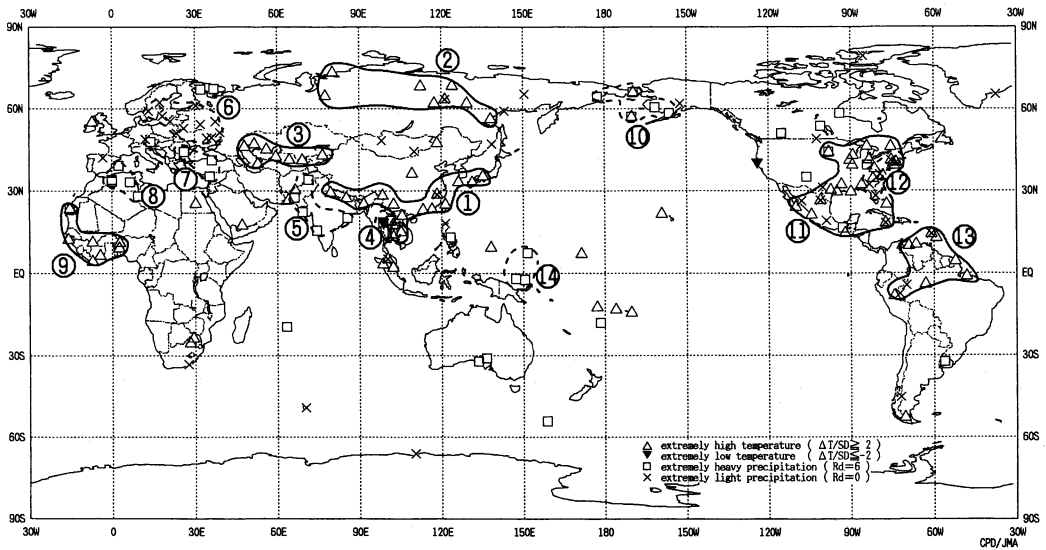
等値線間隔は15 m/s. 陰影部は30 m/s 以上. 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s 以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2005年9月の月平均外向き長波放射量年平偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはCPC/NCEP/NOAA、平年値は1979~2000年のデータから作成。



2005年9月の月平均850 hPa 流線関数年平偏差及び風年平偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2005年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。